

第1部 総説

第1章 佐倉市の概要

第1節 沿革（歴史）

本市周辺は、印旛沼及びその周辺河川がもたらす水利の良さと、比較的温暖な気候に恵まれており、縄文時代の井野長割遺跡や上座貝塚、弥生時代の江原台遺跡や六崎大崎台遺跡など多くの遺跡が分布しています。

鎌倉・室町時代になると、市内に臼井城や岩富城、また本佐倉城などが築城され、戦国時代には千葉氏一族が市域のほぼ全域を支配していました。

西暦1590年以降は徳川家康の支配するところとなり、家臣の土井利勝によって佐倉城が築かれ、城下町としての機能も整備され、佐倉新町を中心とした地域で商工業が、街道筋の臼井や馬渡は宿場町として発展しました。

幕末から明治にかけては、日米修好通商条約の幕府側責任者を務めた堀田正睦、佐倉順天堂を開いた蘭医の佐藤泰然、洋画家の浅井忠、日本の女子教育の先駆者である津田梅子など、数多くの人材が佐倉から輩出されました。また、明治初年に東京鎮台の佐倉分管が佐倉城跡に置かれたことから、佐倉は連隊の街としても大いに賑わいを見せました。

戦後の復興期を経て、昭和29年3月に佐倉町・臼井町・志津村・根郷村・弥富村・和田村の六町村の合併により佐倉市が誕生し、その後旭村及び四街道町の一部が編入され今日に至ります。

第2節 自然的条件

1. 地形

本市は千葉県の北部、都心から東へ40km、県都千葉市から北東へ20km、成田国際空港から西へ15kmの所に位置し、肥沃な農地と豊かな水と緑に恵まれた街です。

行政界は、千葉市、八千代市、四街道市、八街市、酒々井町、印旛沼を隔てて印西市と、6つの市町と接しています。

本市は南東から北西に向かって緩やかに傾斜している下総台地と、これを侵食した谷津と呼ばれる侵食谷及び印旛沼から成り立っています。

2. 気象

本市の気候は、東日本特有の温暖多雨の型に属しますが、その中ではやや内陸的・小雨の傾向にあります。

平成27年の平均気温は15.3℃であり、最高気温は36.6℃(7月・8月)で、最低気温は-4.9℃(2月)でした。

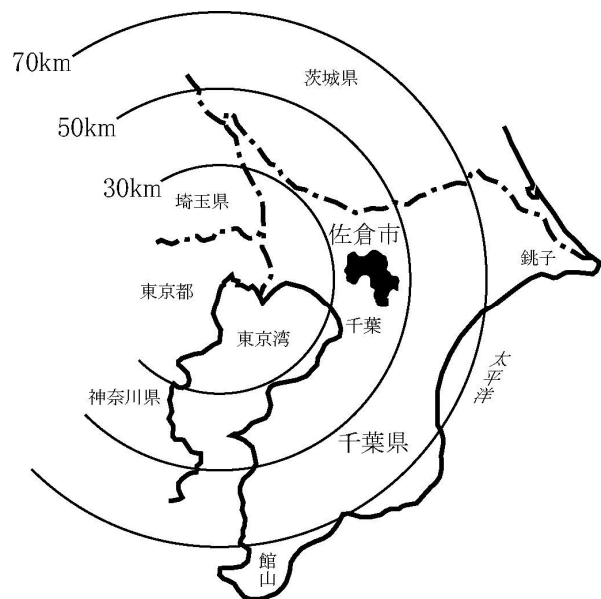


図1-1-1 佐倉市の位置

表 1-1-1 気温の経月変化(平成 27 年)

| (°C) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均気温 | 4.4 | 4.4 | 9.1 | 13.6 | 20.0 | 21.4 | 25.8 | 26.0 | 21.8 | 17.2 | 12.8 | 7.5 |
| 最高気温 | 16.5 | 17.7 | 22.3 | 26.6 | 29.8 | 31.3 | 36.6 | 36.6 | 30.8 | 27.9 | 23.5 | 23.2 |
| 最低気温 | -4.7 | -4.9 | -2.7 | 1.1 | 6.6 | 12.9 | 18.0 | 18.3 | 12.7 | 6.2 | 0.0 | -3.0 |

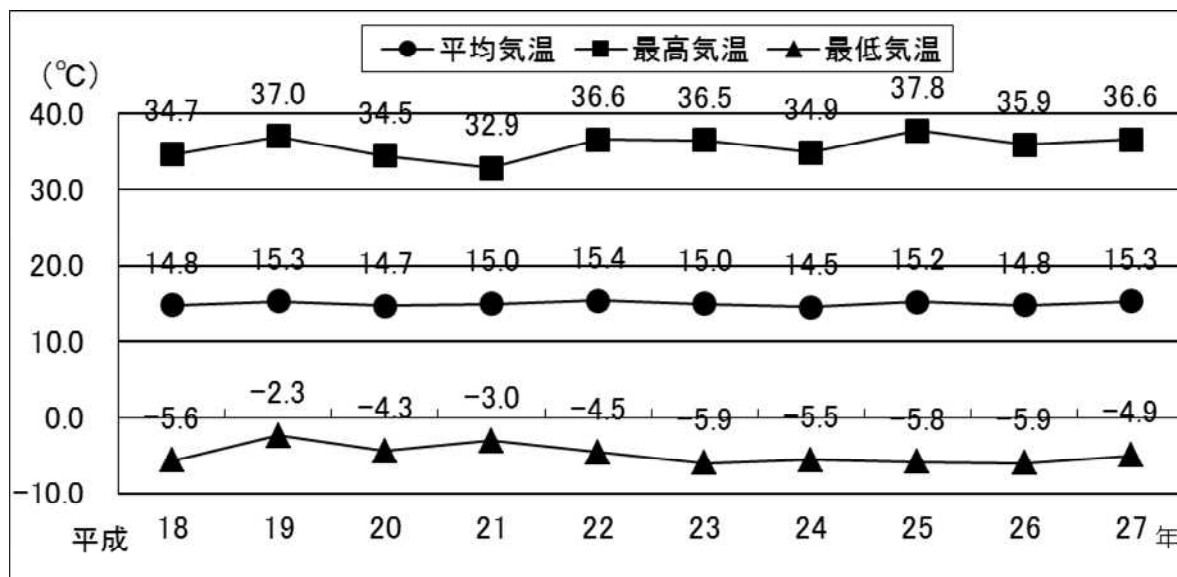


図 1-1-2 気温の経年変化 (出典)佐倉市八街市酒々井町消防組合

平成 27 年の年間降雨量は 1,513.0mm であり、最も降雨量の多い月は 9 月 (329.5mm) で、最も少なかった月は 12 月 (47.5mm) でした。

表 1-1-2 降雨量の経月変化(平成 27 年)

| (mm) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|------|------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|--------|
| 降雨量 | 85.5 | 62.0 | 95.0 | 112.0 | 60.5 | 197.5 | 221.0 | 114.0 | 329.5 | 49.0 | 139.5 | 47.5 | 1513.0 |

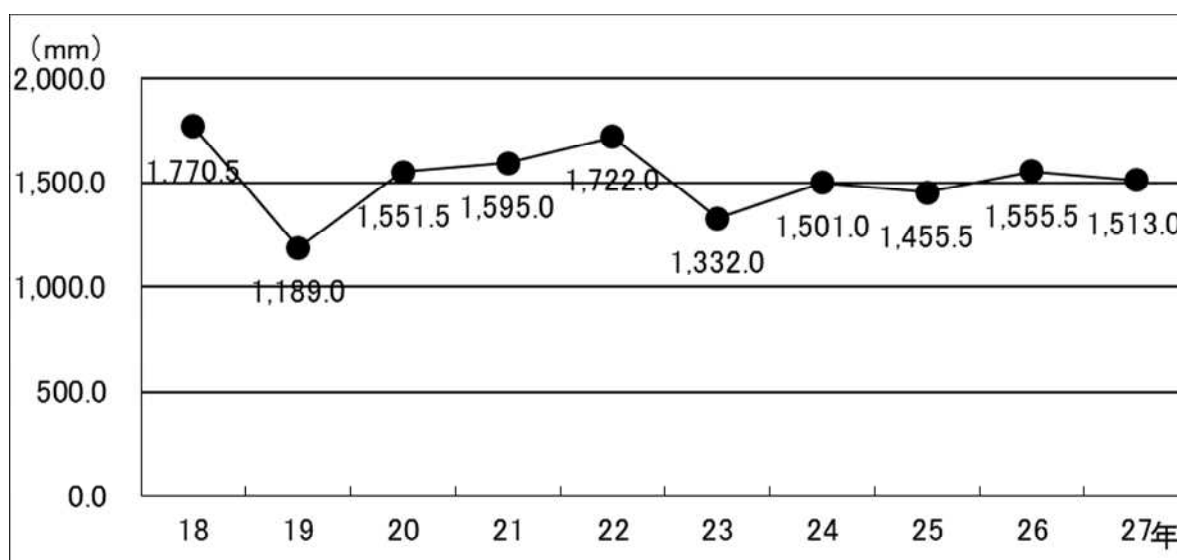


図 1-1-3 年間降水量の経年変化 (出典)佐倉市八街市酒々井町消防組合

第3節 社会的条件

1. 人口・世帯

本市の人口及び世帯数は、合併時に 35,196 人(昭和 29 年 3 月末)だった人口が、現在では約 5 倍の 176,976 人(平成 28 年 3 月末、外国人含む。)となっています。

世帯数は、合併時の 6,838 世帯(昭和 29 年 3 月末)に対し、現在では約 11 倍の 75,451 世帯(平成 28 年 3 月末)となっており、人口より増加倍率が高くなっています。

近年は、人口はほぼ横ばいですが、世帯数はわずかに増加しており、1 世帯当たりの人数は減少傾向にあります。

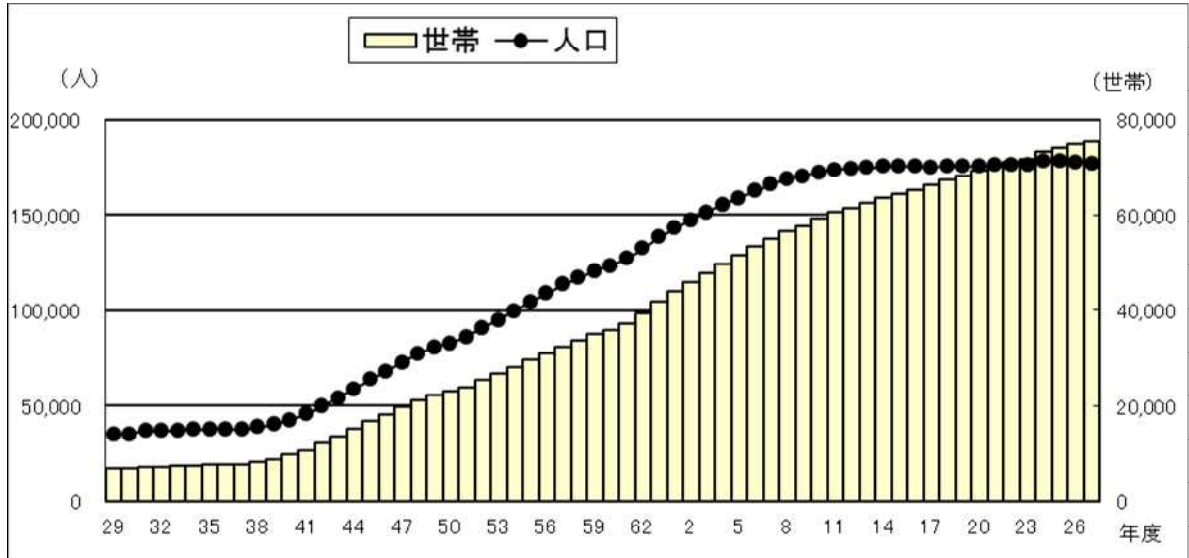


図 1-1-4 人口及び世帯数の経年変化

※住民基本台帳法の改正により、平成 25 年から外国人の人数を含んでいます。

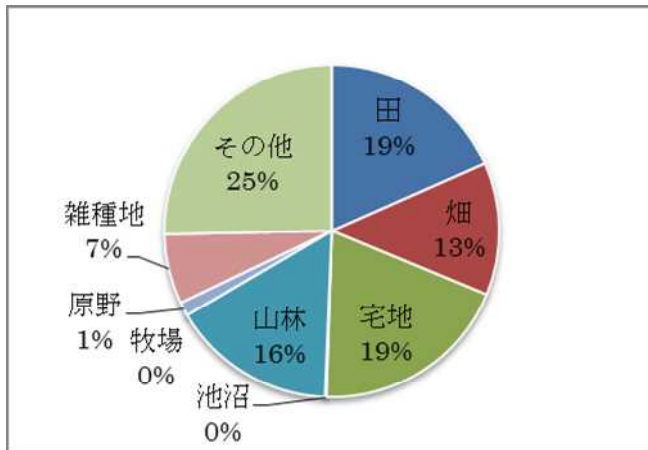
2. 面積及び土地利用

本市の市域面積は 103.69km²で、全域が都市計画区域であり、およそ 4 分の 1 が市街化区域、およそ 4 分の 3 が市街化調整区域となっています。

地目別の土地利用では、田、畑、山林が、面積の約半分を占めています。

表 1-1-3 地目別面積 (単位 1000m²)

| 地目 | 田 | 畑 | 宅地 | 池沼 | 山林 | 牧場 | 原野 | 雑種地 | その他 |
|----|--------|--------|--------|-----|--------|----|-------|-------|--------|
| 面積 | 19,050 | 13,294 | 20,045 | 123 | 16,588 | - | 1,363 | 6,956 | 26,270 |



(出典)千葉県統計年鑑
平成 27 年 1 月 1 日現在

図 1-1-5 地目別面積 (割合)

3. 産業

佐倉市の産業構造を市内事業所の従事者数（平成26年）で見ると、第1次産業が0.3%、第2次産業が21.0%、第3次産業が78.7%、となっています。千葉県全体とほぼ同じ割合と言えますが、第2次産業従事者が若干多く、第3次産業従事者が若干少なくなっています。

本市の農業は、従事者数の割合は少ないものの、首都圏への農産物供給を担う都市近郊農業が展開され、特に米や野菜（やまといも、トマト、落花生等）の生産が盛んです。ただし、後継者不足や都市化の進展等により、農家数、農業従事者数は減少傾向にあります。

本市の工業は、4つの工業団地を中心に、食料品、薬品、金属製品、プラスチック製品などの製造業が立地しています。特に県内有数の内陸型工業団地である佐倉第三工業団地には、研究所やエレクトロニクス産業を中心として先端技術産業が集積しています。本市の製品出荷額（平成26年）は、県内第9位となっています。

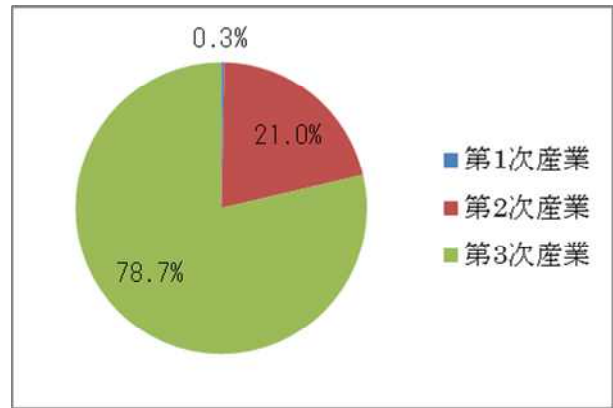


図1-1-6 佐倉市内事業所の従業者数



米の収穫



佐倉第三工業団地